

②戦国～江戸時代の街の歴史

内容	詳細
<p>室町時代に六条大宮に室町幕府の仮の御所が置かれていた</p>	<p>足利義昭は1568年に室町幕府第15代将軍に就任した。その際に本圀寺を仮御所して滞在した。 その後1569年に三好三人衆が、滞在中の義昭を襲撃する「本圀寺の変」が発生する。池田正秀らの奮闘もあり、本圀寺の変は失敗に終わり、その後より強固な御所として「二条御所」が建設されたことにより、本圀寺の仮御所はその役目を終えた。</p>
<p>本圀寺はもともとは「本國寺」だったが、水戸光圀公との縁で「圀」に変更した。</p>	<p>本圀寺は水戸黄門の名で親しまれる徳川光圀が生母である久昌院の追善供養を行って以来、光圀の庇護を受けたことにより、従来の寺名であった本國寺を本圀寺に改めることとなった。</p>
<p>「島原」の地名の由来は「島原の乱」から付けられたと言われている。</p>	<p>1641年に花街が六条三筋町（現在の東本願寺の北側）から移転することになった。正式名称は「西新屋敷」であったが、あまりにも急な移転であり、その喧騒の模様を当時の大きな出来事である九州で発生した島原の乱になぞらえて、島原と呼ばれるようになったと言われている。</p>
<p>亀屋陸奥や負野薫玉堂の歴史は大阪にあった石山本願寺にまでさかのぼる。</p>	<p>亀屋陸奥は1483年に山科で本願寺が建立されて以来、寺の移転を経ながら、本願寺御用達の御供物司として歴史を歩んできた。 1570年に始まった織田信長と石山本願寺の石山合戦で、3代目・大塚治右衛門春近が作った品が兵糧の代わりとなったことが、代表銘菓「松風」のはじまりと言われている。 負野薫玉堂の家系は本願寺の寺侍をしており、石山合戦時には本願寺から御真影を背中に背負って逃げたことから「負野」の名前を賜った。本願寺が京都に移転した後の1594年に、本願寺出入りの薬種商として創業するに至った。</p>
<p>西本願寺の書院にある北能舞台は現存する日本最古の能舞台である。</p>	<p>西本願寺の書院にある国宝の北能舞台には「天正九年（1581年）」の銘があり、現存する最古の能舞台です。なお、その翌年の1582年に本能寺の変が起きている。</p>
<p>正面通の通り名は、方広寺大仏殿（東山区）に対して正面ということに由来する。</p>	<p>しかし、肝心の方広寺大仏殿は火災で焼失し、現在に残るのは豊臣家滅亡の原因となった「国家安康 君臣豊楽」の大梵鐘のみとなっている。</p>